らんまの◆のままで
～淫蕩修行編～
片耳豚
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

らんまと本人といつもの

らんまがお寺で
騙されたり
揉まれたり
舐められたり

みたいなかんじで

二日三晩山中を行き
たどり着いた拳法寺院
早ノQらんまは水をかぶると
Qになっちゃうふざけた体質である
らんまは武者修行の最中
中国山岳地帯の奥深くに
Q体化の呪いを解ける
拳法寺院があるという
噂をたよりに
険しい断崖を進んでいた
結論からいうと――
ドン

完全に――ハメられた！
なにが由緒ある拳法寺院だっ
あのガイドぜってえブチのめす！
まっ……てえっ！
まっ――あっ！
あっ！　あっ！　あぁあっ！
ぬふううん！
やはりまだまだ若輩
この程度の責めで
腰砕けとは――
てっめっ――このヤロウっっっ
なん？　なんだ……これえっ！
おおおっおっおお！
無論この「淫林寺」に伝わる
歴とした闘法よ！
男と女が交われば
それはもう――戦いだろうがい！
あっ!?
あっ
!?

女体を制するとは即ち
男女交合を以って肉体を統べること
これこそが「淫林寺」の奥伝よ
快に浅き体とて
女肉であればこれこのとおり！
尻穴を責められて
無様に悶え
己の未熟を知るがよい――
ふざけっ――畜生おおっ！
なんれ力が抜けるんらぁっ？
それはアレたな……
童貞数百人分の体液を抽出し
色々あって生まれた
特殊な媚薬香を偶然にも
焚いていたからな
さっけんなテメェこのヤロゥ！
単なる反則じゃねぇかっ！
これも淫林の技――それに
これでも手加減しておるわい
はひっ？

そうらどうだ？
そろそろ己の負けを認めて
弟子入りするか？

ガク

ガク

はー

はー

られがぁ……なるかぁっ……

ビクッ

尻の穴はとっくの昔に
降参しておるぞ
弟子にしてくれと我が一物を
しゃぶり抜いてきおる！

ぐぽ

ぐぽ

ぐぽん

尻穴がわなないて
深イキが丸分かりなのに
強情者め――

ゲラゲラ

ゲラゲラ

あっ

ぬるるるるる

ぬるぬるる

おおおお!?

ならば存分にイケい！

どちゅん

おひぃぃぃ

夜はまだ長い
たっぷりと説得を
続けてくれる

はー

はぁ

あっ

ぬうううう——
ふんっ！
ビク
ギュウウウ
ビク
ヘひっ♡
ギュポッ
強情を張るからだ
年甲斐もなく
本気を出してしまったわい
底無しの体力で
文字通り一晩中責められた俺は
朦朧とした意識の中で
弟子入りを認めさせられていた
ぐチュリ
はー
あっ
これより弟子入りを認める
明日から修行に励むがよい
あっ
はー
ピク
ピク
ピク
後になって考えれば
この時に死に物狂いで
逃げ出しておけばよかったと思うが
この時の俺には
指一本動かす気力もなかった
ビク
ビク
はー♡
ビク
はー♡
ゴポ
ゴポ

修行初日――
この寺はもうダメだと悟った
なんっだあこの服はっ！っていうかこれ服かっ！
服だよ
こんなもん着て修行できるわけねえだろ！
出来るよ
この寺には馬鹿しかいない
まぁまずは実践にうつる前にじっくりねっとり基礎訓練にはげむがよい
ここにある――まるで人間と見紛う如く動く淫林寺謹製木人を相手に功夫を積めい
人の夢のために生まれた……
さけんなっ！どう見ても被り物した変態どもだろうがっ
うるせぇぇぇっ！

フラ
修行といっても媚薬香のせいで
力の出ない俺は基本的に
成すすべなく組みしだかれる
フラフラ
そうなったらもう――
そこからは一方的にやられる
しかも連中は常に複数人で
群がってきやがるから
まとわりつく男の匂いに、
頭がクラクラする
むにっ♡
むんず♡
手でもみくちゃにされる程度の
感覚でもそれを半日以上
続けられるのはかなりキツイ
あっ♡
尻穴を犯られてからは
野郎にまさぐられると
体が熱を持ったみたいに
うずくのがヤバイ

この寺では女の体のままでいるように厳命された
しかもムカつくことにこいつらは修行外でもお構いなしに俺の体を弄りまわしてくるのだ
もにゅ
もにゅ
本気で暴れても無言で責め続けられる上に仲間も呼ばれるのでそれとない抵抗で誤魔化すことにしたが……
俺の体のどこがどう感じるのかをどうやら探られていたらしく――
始めのうちはどうにか隙を見て男に戻ろうとしたのだが連中は四六時中俺についてまわり見張られているからそれも出来ない
フル
フル
フル
かなりマズいんじゃねーかと……気づいたときには手遅れだった

修行が進み次の行――
男根に慣らされる特訓が
始まった
チンポむき出しで
にじり寄ってくる野郎どもに
嫌悪感しかないはずなのに
体の芯が火照ったように
疼いてたまらない
この期に及んでは自分の体が
だいぶマズい事態になっていると
認めるしかない――
むせ返るような
雄そのもののの匂い――
今の俺には出せない匂い――
調子に乗ったチンポに
乳首をおもちゃにされ
甘イキさせられる
ムカツクが抵抗出来ない
はぁ
はぁ

亀頭で鼻を擦られると俺の頭が本格的に馬鹿になる

濃厚すぎる性臭……ヤバイ……この瞬間はヤバイ……

お前で興奮しているんだと分からせるみたいにオナって——

俺めがけて——

チンポなんて気持ち悪いはずなのに——目が逸らせねぇ

逃げなきゃマズいって分かっていても——

「あ、これ駄目なやつだ」と気づいた時には手遅れで

浴びせられた精子に塗れて俺のどこかでスイッチの入る音がした——

修行の成果を見せるとして
初日に犯られた師範と
模擬戦――つまりはセックスを
することになった
嫌で嫌でたまらないが……
これに合格すれば
晴れて免許皆伝――
この寺ともオサラバ出来るらしい
信用は全くできないが
俺の匂いを嗅ぐ変態を
憐れに思って受けてやる
ことにした
本当にそれだけである
スーハー
クンカ
クンカ
スーハー
フル
フル
フル
ギュン
ギュン

始まった瞬間に
ヤバイ――と思った
こいつはマズいやつだ――って
こいつの触り方――
イチイチが「ツボ」で
馬鹿みたいに「キク」のだ
「木人達からの記録を参考にしている」
「初日のようなら耐えられると思ったか」
体の追い詰められ方が
この寺に来てから一番早い
両乳首に同時に違う
快感を叩き込まれて
腰が砕けそうになる
序盤でこれじゃあ
この後どうなるのかと
考えただけで――
目眩と火照りに
頭をもっていかれる

師範の指テクで悶絶し
ベッドに誘導されたところで
さらに追い討ち
本番の前にまずは俺の体を
オンナとして完全に仕込むらしい
もうほとんど泣きの入っている俺に
延々と快感を叩き込むコイツは
間違いなく外道の変態だ
指のひと撫でごとに
俺の大事な部分を
こそげ落とされていくようで……
悔しいがそれがまた
たまらなく気持ちいいのだ
コイツほんとに……
女のカラダを追い込むのが
うますぎるだろ――

散々焦らされて泣かされたあと
一気に貫かれて――
俺の一番奥をコネ回されて――
何度もチンポで叩かれて――
潰されるように押し込まれて――
嫌になるほどチンポの形を
憶えこまされて――
敗北の屈服アクメを
宣言させられて――
それでも許してくれなくて――
結局俺は一晩中
チンポに貫かれたまま
気を失って
その日俺は
女として完全に仕上げられた
ガクガクガク
グポ
グポ
じゅぽ
じゅぽ
グポ
ビクビク
ビクビク
ビクビク
ビクビク

次の日からは
いっぺるのにイけない
師範の個人修練に
付き合わされるようになって
毎日チンポで特訓させられた
精液を放たれたあと放置され
精子の味を憶えたところで
コンドームをつけて
わざと射精を感じさせない
ように焦らされるのは
キツかった——
本気の射精を仕込んでからの
焦らしはマジで悪辣だ
頭の中がチンポと
ザーメンのことでイッパイに
なるのが悔しくてたまらないが
結局俺はこの日も
敗北宣言をして
射精をねだってしまった
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン
ビクン

翌日も膣中の鳴き所を滅多突きにされて
おねだり屈服をさせられちまった
このままだと永遠に師範から
「まいった」と言わせられそうにない
部屋に入るまでは
今日こそは――と思っても
一突きで覚悟を根こそぎに
されるんだから
このチンポはやべぇ……
いい加減に何とかしないと
女の方の俺が本物になっちまう――
大量のザーメンをナカに刷り込まれながら
とりあえず今日はいいか――と
深イキしながら俺はそんなふうに考えた
ビクビク
チンポ
おっ
おっ
チンポ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
ドピュ
ドピュ
ドピュ

あとがき

サマーシーズン到来。
どうも片耳豚です。
今回は結構描いてるらんま本です。
何度描いても可愛い。
リメイクしてほしいけど
リメイクしてほしくない。
そんな複雑な心持ちになる作品ですね。

現在進行がギリッギリでどうなるかわかりません。
もしも無事に出来上がったらお会いしましょう。
それにしても夏。
はしゃがずにはいられない！

PS：腰！　はしゃいだらただでは済まない！

らんまのまま

～淫蕩修行編～

奥付
発行 / 片耳豚
印刷 / 金沢印刷
発行日 /2017.08.13

らんまと本人といつもの

らんまがお寺で
騙されたり
揉まれたり
舐められたり

みたいなかんじで

らんまのままで

～淫蕩修行編～

片耳豚
ぷれぜんつ